

令和2年12月2日

鹿児島市長 森 博 幸 殿

鹿児島市事業評価監視委員会  
委員長 木村 至伸



令和2年度鹿児島市事業評価監視委員会における審議結果について（報告）

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

付議された社会資本総合整備計画「鹿児島市における区画整理による安全・快適なまちづくり（第2期）」、「鹿児島市における人と環境にやさしい交通環境の充実による公共交通利用の促進」の各事後評価原案について、詳細に審議を行った結果、事業効果の発現状況及び補足説明を追記することを条件として付した上で、いずれも妥当であるものと認める。

事業評価監視委員会が出された主な意見

社会資本総合整備計画「鹿児島市における区画整理による安全・快適なまちづくり（第2期）」

- ・「評価時走行時間と整備後走行時間の差」の「評価時」という表現が、事後評価を行っている現時点（令和2年度）と勘違いされやすく、紛らわしいので、「整備前」とした方が分かりやすいのではないか。
- ・計画の目標が「活力のある社会の形成と安全で安心して暮らせる快適なまちづくりの推進を図る。」となっており、これは主観的なものである。速さなどの定量的指標で達成度を量ることは理解するが、それだけでいいのか。安全・安心・快適など、定性的なものを記載できないのか。

社会資本総合整備計画「鹿児島市における人と環境にやさしい交通環境の充実による公共交通利用の促進」

- ・JR坂之上駅、谷山駅、慈眼寺駅の利用者数（日当たりの換算乗降客数）について、計画策定時に年度別推計値を算出し、これを基に最終目標値を設定しているが、推計値と目標値との関係が読み取れないので、推計値の算出方法も記載するべきではないか。
- ・谷山地区アクセス環境整備事業は、計画策定時の全体事業費4億1,300万円に対し、実績額2億7,700万円となっており、材質等を見直したことで、コスト縮減が図られたとのことだが、このことはプラス材料として事後評価シートに記載するべきではないか。
- ・まだ供用開始していないもの（永田川右岸の遊歩道整備：令和2年12月供用開始予定）もあるが、評価時期は適切なものか。また、評価を公表する際は、上記の整備も完了しているとのことだが、いつ時点で評価を行ったのか記載するのか。
- ・谷山地区の駅利用者は、同地区の人口比で見ると、平成27年度の12.71%から令和元年度の14.9%に増加している。指標には設定されていないが、計画の目標にある「公共交通機関への利用転換の促進」が図られているとも読み取れるので、このことも記載してもいいのではないか。